

## 第50回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成28年6月20日（月） 10：30－11：30

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、中須賀委員、青木委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、高見参事官、松井参事官、末富参事官、守山参事官

4. 議事要旨

事務局より、6月10日の宇宙政策委員会における議論等を踏まえ、中間取りまとめ策定に向けた関係省庁の検討状況や、附属文書となる資料について報告が行われた後、委員間で議論があった。

主な意見は以下の通り。

- ・ 関係府省の役割が明確になるよう、具体的な記述を充実して頂きたい。
- ・ 専門用語等は補足説明をつけ、分かりやすいものとして頂きたい。
- ・ 宇宙産業ビジョンについては、機器産業の自立性を始め、産業基盤の維持、強化は重要な視点である。
- ・ 利用分野について、宇宙分野に閉じないで社会全体の課題にどう貢献するかという視点が大事である。
- ・ 将来的な視点として、宇宙資源開発や軌道上給油サービス等の新しい軌道の利用方法等、欧米の動きを含め我が国としての検討を進めるべき。
- ・ 宇宙活動法、衛星リモセン政策、海外展開タスクフォースなど、既存の取組と連動して宇宙産業ビジョンの検討を進めるべき。
- ・ 文書を取りまとめるだけでなく、海外展開についてもマメに動くことで、成果が上がったように、当面は今動いている企業等と密接に連携し、人材を発掘していき、全体の動きと結び付けていくべき。
- ・ 官と民の間に温度差があり、官だけが先行してもプレーヤーとしての民とのギャップが開いてしまい、よくない。自らリスクをとって宇宙分野で活躍するプレーヤーを増やす必要がある。
- ・ そもそも宇宙分野でどこまでのコストダウンが可能なのか、政府の宇宙予算のあり方等をよく検討した上で、宇宙産業ビジョンで取り組むべき課題を具体化していく必要がある。

以上